

菅平付近の哺乳類相*

金森正臣・安藤 裕

Masaomi KANAMORI & Hiroshi ANDO: Mammalian Fauna
of Sugadaira and its vicinity

菅平付近の哺乳類相については、小泉、横沢、広瀬 (1963)、安藤 (1964, 1967) などの報告があり、大・中型種についてはよく知られているが、小型種についての調査は不十分である。上記報告の他に食虫目とネズミ科については、岸田 (1935)、宮尾・金森 (1964) があるが、翼手目については、今日なお、未調査に近い状態である。

ここでは現在までに知られた種を記録し、必要に応じ測定値、標本の所在、過去の記録、生態などを付記した。

菅平付近の哺乳類

I. Insectivora 食虫目

1. Soricidae トガリネズミ科

1) *Sorex shinto* THOMAS トガリネズミ

頭胴長：43—65 mm 体重：3.0—7.5 g 根子岳中腹のダケカンバ林内に多い。実験所構内では、夏季には捕れていないが冬季には捕れる。剥製標本：菅平自然館

2) *Crocidura dsinezumi* (TEMMINCK) ジネズミ
頭胴長：56—62 mm 体重：5.7—7.0 g 数は少なく、1963—1966年の間に4頭捕獲され、うち1頭は屋内で捕れた。剥製標本：菅平自然館

3) *Chimarrogale platycephala* (TEMMINCK) カワネズミ

頭胴長：114 mm 体重：50 g 大明神沢(合流より500 m 程上流)で捕獲されている¹⁾。飼育中にはキリギリスなども食べた。剥製標本：菅平自然館

2. Talpidae モグラ科

4) *Mogera wogura* (TEMMINCK) モグラ

頭胴長：92—130 mm 体重：45—70 g 弊死体を3頭得ている。剥製標本：生物実験所

5) *Dymecodon pilirostris* TRUE ヒメヒミズ

頭胴長：67—75 mm 体重：9.4—11.5 g 根子岳中腹や深谷林ではヒミズより本種の方が多い⁸⁾。実験所構内ではヒミズと共に捕れる。本種は秋から冬に多く、夏にはほとんど捕れない。

6) *Urotrichus talpoides* TEMMINCK ヒミズ

頭胴長：70—97 mm 体重：14—20 g 菅平ではハタネズミと共に多い種である。捕獲最小体重は14 g である。

II. Chiroptera 翼手目

3. Rhinolophidae キクガシラコウモリ科

7) *Rhinolophus ferrumequinum* (SCHREBER) キクガシラコウモリ

液漬標本が実験所に保存されていたが^{1), 2)}、1966年の松代群発地震の際に破損した。

4. Vespertilionidae ヒナコウモリ科

8) *Murina aurata* MILNE-EDWARDS コテングコウモリ

この種はアカモズの早にえとして、本実験所の有刺鉄線にさされていたものである¹²⁾。

III. Primates 霊長目

5. Cercopithecidae オナガザル科

9) *Macaca fuscata* BLYTH ニホンザル

和熊沢¹⁷⁾、米子の山岳部³⁾、四阿山頂および米子沢、角間沢、傍陽の奥に生息するとの報告がある¹⁾。最近では1971年秋に大日向宮前部落で目撃されている。

IV. Lagomorpha 兎目

6. Leporidae ウサギ科

10) *Lepus brachyurus* TEMMINCK ノウサギ

* 東京教育大学理学部附属菅平高原生物実験所業績 第29号

頭胴長：500 mm 体重：2500—2540 g 個体数は多い。冬季に白化するものは、高原部よりも根子、四阿の山腹に高に多い。1964年1月11日原谷地で捕獲された雌、体重 2500 g の背筋部に、当地方でホヤと呼ばれる水疱（約 70 g）があった。剥製標本：菅平自然館（頭胴長：500 mm, 体重：2540 g 1967年捕獲）

V. Rodentia 齧歯目

7. Sciuridae リス科

11) *Sciurus lis* TEMMINCK リス

頭胴長：200 mm 体重：208 g アカマツ、カラマツ林で見かけられる。剥製標本：生物実験所

12) *Petaurista leucogenys* TEMMINCK ムササビ

頭胴長：265 mm 体重：335 g 神社などの大木のある場所以外では、ほとんど見かけられず、個体数も少ない。剥製標本：生物実験所（1970年9月、大日向すださき山、雄）

8. Cricetidae キヌゲネズミ科

13) *Aschizomys niigatae* (ANDERSON) ニイガタヤチネズミ

頭胴長：81 mm 体重：24 g 菅平では個体数の少ない種で、溪谷林や亜高山の針葉樹林に生息する⁸⁾。

14) *Eothenomys smithi* (THOMAS) スミスネズミ
頭胴長：66 mm 体重：17 g 溪谷林や亜高山針葉樹林などで捕れるが、個体数は少ない⁸⁾。

15) *Microtus montebelli* (MILNE-EDWARDS) ハタネズミ

頭胴長：100—128 mm 体重：25—49 g 菅平付近の哺乳類中最も個体数の多いもので⁸⁾、菅平では植林、牧草、青刈麦、キャベツ、ニンジン、馬鈴薯などを食害する。草原や伐開地に多い。菅平のハタネズミについては2～3の報告がある^{7, 8, 13)}。現在までの最大個体は、雌、頭胴長：130 mm, 体重：57 g, 尾：45 mm (胎児数 5, 胎児総重量約 10 g 出産直前) 1968年8月捕獲。

9. Muridae ネズミ科

16) *Apodemus speciosus* (TEMMINCK) アカネズミ
頭胴長：95—116 mm 体重：24—41 g 本州では最も普通の種で、分布は広い。低地から標高 2000 m の亜高山帯まで分布する⁴⁾。ハタネズミが優占する地域でも、少数ではあるが捕れる。

17) *Apodemus argenteus* (TEMMINCK) ヒメ

ネズミ 頭胴長 66—89 mm 体重：11—23 g 森林帯で、低地から高山まで広く分布する。菅平ではハタネズミに次いで多い⁸⁾。20 g 以下の個体が多い。

18) *Rattus rattus* (LINNAEUS) クマネズミ
頭胴長：145—175 mm 体重：75—143 g 人家で捕獲されるが、ドブネズミほど多くない。菅平のクマネズミの骨格については報告がある¹¹⁾。

19) *Rattus norvegicus* (BERKENHOUT) ドブネズミ

人家に多い。1農家で1箇月間に、幼体5個体を含む30個体が捕れた(黒色型3頭を含む)。他の場所で捕れた16個体中、10頭が黒色型(2頭は部分白化型)であった。夏秋には人家から500mも離れた草原で捕れることがある。菅平のドブネズミについては清水¹¹⁾の報告がある。

10. Gliridae ヤマネ科

29) *Glirulus japonicus* (SCHINZ) ヤマネ
和熊沢での目撃¹⁷⁾ や体育研究場付近などでの捕獲¹¹⁾ の記録がある。剥製標本：菅平自然館（1965年9月ひばり沢）

VI. Carnivora 食肉目

11. Canidae イヌ科

21) *Vulpes vulpes* (LINNAEUS) キツネ
個体数は多くない。1964年6月菅平中組、同年9月菅平西組、同年10月菅平西組で捕獲された。近年増加しているらしい。剥製標本・頭骨標本：生物実験所（頭骨基底長：134 mm）

22) *Nyctereutes procyonoides* (GRAY) タヌキ
根子岳中腹の芝地で目撃したことがある。1963年10月菅平向組で捕れている。

12. Ursidae クマ科

23) *Selenarctos thibetanus* (G. CUVIER) ツキノワグマ

菅平付近には少なくない¹⁰⁾。実験所構内の大明神沢にも出没する。剥製標本：菅平自然館（1968年9月25日）♀成獣4才位 82.5 kg 公幼獣当才 19 kg 液漬標本：生物実験所（1937年3月上旬、大松山で分娩直後の仔を捕え飼育したが3箇月で死んだ。雄¹⁰⁾）頭骨標本：生物実験所（頭骨基底長：225 mm 体重45 kg の個体、253 mm, 255 mm の3個体）

13. Mustelidae イタチ科

24) *Mustela erminea* LINNAEUS オコジョ

四阿山での目撃¹⁷⁾や、根子岳、四阿山の中腹以高に生息するとの報告がある¹⁾。

25) *Mustela sibirica* PALLAS イタチ

頭胴長：270—350 mm 体重：260—365 g (雄) 人家付近に多い。剥製標本：菅平自然館 (1965年3月横沢で捕獲, 頭胴長：320 mm 体重：365 g 雄) 頭骨標本：生物実験所 (1969年5月, 菅平で捕獲, 頭骨基底長：52 mm 頭胴長：275 mm 体重：260 g 雄)

26) *Martes melampus* WAGNER テン

横沢¹⁷⁾に記録がある。他に渋沢で捕獲されたキテンの冬毛標本がある。剥製標本：菅平自然館

27) *Meles meles anakuma* TEMMINCK ニホン

アナグマ

頭胴長：425—530 mm 体重：1480—1900 g 人家の近くで捕獲されることがある。剥製標本：菅平自然館 (1965年 菅平東組で捕獲, 頭胴長：530 mm 体重：1900 g 雌 乳頭式：0+1+2=6)

VII. Artiodactyla 偶蹄目

14. Bovidae ウシ科

28) *Capricornis crispus* (TEMMINCK) カモシカ 横沢¹⁷⁾・安藤¹⁾・²⁾が記録している。根子岳, 四阿山, 大際間には多い。保科岩窓付近でも見かけることがある。骨格標本：生物実験所 (1972年7月 四阿山 里宮付近)

現在では菅平付近に見られない種類

Carnivora 食肉目

Canidae イヌ科

1) *Canis lupus hodophilax* TEMMINCK ニホンオオカミ

明治25~26年頃までは真田町付近にも生息したらしい¹⁷⁾。長野県立上田高等学校に, 明治14年頃に烏帽子岳中腹で捕獲されたというニホンオオカミの頭骨(後頭部が破損)が保存され³⁾, 計測されている^{5, 9)}。

Mustelidae イタチ科

2) *Lutra lutra whiteleyi* GRAY ニホンカワウソ かつて, 上田市や真田町付近に生息していたという^{1, 2, 3)}。菅平の唐沢岩陰遺跡(縄文晩期~弥生後期)から, ニホンカワウソの下顎骨が出土したとの報告があるが⁹⁾, 標本の確認はしていない。

Artiodactyla 偶蹄目

Suidae イノシシ科

3) *Sus scrofa leucomystax* TEMMINCK ニホンイノシシ

明治初~中期までは, 菅平付近に生息していた¹⁷⁾。上記の唐沢岩陰遺跡から多数の骨格が出土している⁹⁾。角間沢で拾われたという頭骨がある^{1, 2)}。頭骨標本：菅平自然館(角間沢で拾われたという上顎。頭骨基底長：300 mm 門歯欠, 臼歯列長：870 mm)

Cervidae シカ科

4) *Cervus nippon* TEMMINCK シカ

唐沢岩陰遺跡から多数の骨が出ている⁹⁾。菅平付近にも明治中葉までは生息していた^{1, 17)}。傍陽²⁾, 四阿山頂付近で落角を拾っている。落角標本：菅平自然館(傍陽 長さ：157 mm 角座径：49.8×30.5 mm 角座上部径：34.5×30.5 mm)

菅平付近の哺乳類相について

今日まで菅平付近で生息が確認されている哺乳類は, 7目14科28種である。記録された種はいずれも本州中部の山岳地帯に普通のもので, 特筆に値するものはない。現在全く手のつけられていない翼手目の調査が進めば相当数の種類が追加されよう。

上記の7目14科28種に, 既に絶滅したニホンオオカミ, 現在菅平付近には見られないニホンカワウソ, シカ, ニホンイノシシを加えると, 7目16科32種になる。シカは現在, 千曲川南岸の八ヶ岳, 蓼科, 武石などに, イノシシは伊那, 諏訪地方に生息している。



図1 長野県立上田高等学校に所蔵されているニホンオオカミの頭骨

引用文献

1. 安藤 裕 (1964) 菅平付近の動物相 すが平その自然と人文 菅平研究会 65—72頁
2. —— (1967) 哺乳類 長村誌 長財産区 64—70頁
3. 広瀬幸男 (1963) 哺乳動物の生態と分布 上田小県誌4 自然編 小県上田教育会 693—709頁
4. 金森正臣・松沢千年 (1968) 越後三山・奥只見付近のネズミおよび食虫類 日本自然保護協会調査報告 (34) : 233—241
5. —— (1973) ニホンオオカミの頭骨の計測 日本哺乳類雑記 (2) : 97—98
6. 金子浩昌 (1967) 洞穴遺跡出土の動物遺存体 5 唐沢岩陰 日本の洞穴遺跡 平凡社 438—442頁
7. 岸田久吉 (1935) 菅平のハタネズミ 動雑 47 : 794
8. 宮尾嶽雄・金森正臣 (1964) 菅平高原のネズミおよび食虫類 すが平その自然と人文 菅平研究会 73—76頁
9. 直良信夫 (1965) 日本産狼の研究 校倉書房
10. 佐藤恭二郎 (1964) ツキノワグマの仔の飼育 すが平その自然と人文 菅平研究会 77—78頁
11. 清水三雄 (1942) 高原産鼠 (*Rattus* 属) の骨の相対成長に就いて 動雑 54 : 100—107
12. 八木誠政 (1934) アカモズの早贄の追加 植物及動物 (2) : 1888
13. —— (1939) 東京文理科大学附属菅平高原生物研究所 採集と飼育 1 : 345—351
14. YOSHIDA, T. (1967) Studies on the biotic productivity of Daimyojinzawa, and acidic mountain stream in Nagano Prefecture. Bull. Sugadaira Biol. Lab. (1) : 19~34
15. 小泉清見 上田小県地方動物目録 (未発表)
16. 東京教育大学理学部動物学教室生態学研究室 (1957) 菅平産動物目録 (孔版印刷)
17. 横沢末木 我が郷土の野獣 (未発表)

(東京教育大学理学部附属菅平高原生物実験所)